



→対岸の柴又側では草野球を楽しむ人々でにぎわうそばを舟が行く。

←びっしりと群れて咲いているホトケノザ。南向きの斜面に咲いたホトケノザはピンクのジュータンを敷きつめたようだ。



今週から矢切の渡しは土日祝祭日のほかに平日も運航される。いわゆる夏ダイヤになる。

この時期の気候は三寒四温と呼ばれ寒い日が三日続き暖かい日が四日続くのを繰り返しながら、やがて暖かくなるといわれるが、いまがまさにそう。

金曜日、十八〇近かった気温が土曜日には十〇前後にしかならなかった。

不思議なもので金曜日は小雨もようだったがウグイスの声を江戸川に流れ込む坂川の河口と矢切の斜面林の二ヶ所で聞いた。矢切畑では早くもヒバリが縄張りを主張してさえずつていた。

本格的な春も、もうそこまでやってきている。これからは一日ごとに暖かくなってくるだろう。

矢切畑のあちこちに青いイヌノフグリが咲き、ピンクのホトケノザが絨毯を敷きつめたように咲いている。菜の花の上を吹き抜けてくる風は黄色をおびていて、鼻こうをくすぐるような素敵な香りを運んでくる。

これだけを見ていると春は盛りかと思えるようだが、吹いてくる風は冷た

今週のクマ

→クマはいまだに野生の性質が残っている。今日もモグラを掘る。



→畑のそばにはえる木にヒヨドリたちが羽を休めていた。ここから畑に植えられている春キャベツの苗を食べに行く。旅立つ前の体力をつけるためだ。



くまだ充分とはいえない。

春キャベツの苗が植えられた畑には旅立つために体力をつけようとヒヨドリたちが集まってきて群をつくり始めた。ヒヨドリは渡り鳥ではないが、一羽二羽とどこからともなく集まってきて大きな群になると旅だつて行く。

ヒヨドリが群をなして津軽半島を渡つて行くときは、海面すれすれを飛ぶそう。私は見たことはないが、ハヤブサなどの猛禽類に襲われないためだそう。鳥は鳥なりに知恵をはたらかせている。

里見公園の下を流れる江戸川に一羽のコブハクチョウが住みついているが、釣り人たちがおもしろがって釣りの餌をわけ与えるものだから、すっかりなついている。ときに食パンを持って来る人もいて食べ物には困らないようだ。

それでも夜になると坂川の河口に移動して眠る。坂川の河口は江戸川より狭いうえに両岸に木がはえてい、それが白鳥の身を隠してくれるから安心して休めるのだろう。白鳥はふつうなら飛べるのだろうが、この白鳥は飛び方がわからない。矢切周辺には様々な表情がある。